

平成23年度

布佐学習

地域に学び、地域に働きかける

心情豊かな子どもたちの育成

—「布佐学習」を中心に—



我孫子市立布佐小学校

I. 研究の概要

1. 研究主題
2. 主題設定の理由
 - (1) 学校目標から
 - (2) 本校児童の実態から
3. 研究仮説
4. 学団仮説
5. 研究構想図
6. 研究組織と運営
7. 研究の経過
8. 研究の成果と課題

I. 研究の概要

1. 研究主題

地域に学び、地域に働きかける、心情豊かな子どもの育成

— 「布佐学習」を中心に—

2. 主題設定の理由

(1) 学校目標から

「心豊かにたくましく生きる児童の育成」

- ◎明るく思いやりのある子
- ◎よく考え自ら学ぶ子
- ◎気力たくましく元気な子

学校目標「心豊かにたくましく生きる児童の育成」は、児童が自分の良さを伸ばすと共に相手を思いやり、共に生き学び合う力を身につけることにより、心豊かなたくましい人間性を持った子どもを育成することを目指している。

本校の目指す児童像は、「明るく思いやりのある子(徳)」「よく考え学ぶ子(知)」「気力たくましく元気な子(体)」であり、友達に優しく接し仲良く生活することや、意欲を持って学習に取り組み最後までやり抜くこと、安全で健康な生活のできる子の育成を目指している。中でも、「明るく思いやりのある子」は、人間関係の土台となるものである。自ら学びたくましく生きようとする主体的かつ積極的な姿勢を身につけながら、相手の気持ちを思いやれる心の豊かさを育てていくことが重要である。

「布佐学習」に取り組み、郷土「布佐」の良さを知り、愛着を持つとともに地域社会に貢献できる人材を育てていく中で、自分の考えを伝え合い、互いを認め合うことで、自他共に大切に作る心豊かな児童を育成できると考える。

(2) 本校児童の実態から

子どもたちの住むこの布佐地区は、江戸時代から利根川の水運で栄えた河岸の町、商業都市であり、町並みも利根川に沿う成田街道(国道356号線)沿いに早くから形成され、柳田國男や岡田武松など文化人との関わりや古くからの祭礼が残ると共に、茨城県利根町や印西市との交流も盛んに行われてきた歴史ある地区である。しかしながら、子どもたちはこのような地区に住んでいるにもかかわらず、その歴史的背景などはあまり理解しておらず、地元地域への愛着心はあるがその理由は漠然としているというのが現状である。生活の基盤となる地域に対しての理解を深め、地域へより強い愛着を感じ、よりよいまち作りに参加しようとすることは、他を思いやり、互いに助け合おうとする「心情豊かな子どもの育成」に大きく役立つものと考えられる。

そこで、今年度は千葉県及び我孫子市の「都市計画マスタープラン」に基づき、布佐地区の実情や特性を学び、それに応じた市のまち作りの方針を理解し、小学生にもできるまち作りへの取り組みを探し出し取り組んでいきたい。地域の中で活動することで表現力を高め、また、確実に自分たちが役に立っているという実感を味わわせることで一人一人の自己肯定感が高まり、子どもたちの心情が豊かに育つであろうと考え、「地域に学び、地域に働きかける、心情豊かな子の育成」を研究主題に掲げることとした。

3. 研究仮説

自分たちの住むまちの良さや歴史を知り、さらによりよいまちづくりについて考え実践する「布佐学習」をすることにより、他を思いやり、互いに助け合おうとする心情豊かな子どもが育つであろう。

4. 学団仮説

低学年	<p>「布佐のまちを見たり聞いたりして、地域の良さに気づかせれば、布佐を大切にできる心情豊かな子どもが育つであろう。」</p> <p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none">・布佐のまちにある公園や店、地域の人々と直接関わる活動を取り入れる。 <p>(公園見学や町たんけん)</p> <p><マスタープランとの関わり></p> <ul style="list-style-type: none">○安全で快適な暮らしを支えるまちづくり○地区の資源をいかし、にぎわいを生み出すまちづくり
中学年	<p>「布佐のまちの良さや歴史について誇りをもって周りの人たちに伝える活動をしていけば、互いに協力したり、思いや願いを伝え合ったりできる、心情豊かな子どもが育つであろう。」</p> <p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none">・地域の人々との交流の機会を多く持つ。・プロジェクト学習を取り入れ、子どもたちに活動のめあてを明確に持たせる。 <p><マスタープランとの関わり></p> <ul style="list-style-type: none">○安全で快適な暮らしを支えるまちづくり○地区の資源をいかし、にぎわいを生み出すまちづくり○人のつながりを深めるまちづくり
高学年	<p>「布佐のまちをつくり上げてきた人々の思いや努力を知り、よりよいまちづくりに向けて、自分たちにできることを考え実践していけば、地域を大切にできる心情豊かな子どもが育つであろう。」</p> <p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none">・未来の布佐のまち構想の提案・歴史パンフレット・新聞づくり <p><マスタープランとの関わり></p> <ul style="list-style-type: none">○地区の資源をいかし、にぎわいを生み出すまちづくり○人のつながりを深めるまちづくり
特別支援学級	<p>「布佐のまちに目を向け、今の様子、昔の様子を調べてまとめる活動を行っていけば、互いに協力する態度を育て、まちへの理解を深めることができるであろう。」</p> <p><手立て></p> <ul style="list-style-type: none">・布佐マップづくり・布佐かるたづくり <p><マスタープランとの関わり></p> <ul style="list-style-type: none">○地区の資源をいかし、にぎわいを生み出すまちづくり

<参考>

我孫子都市計画マスタープラン概要

1. 都市計画マスタープランとは

都市計画マスタープランは、都市計画法第18条の2により、「市町村の都市計画に関する基本的な方針」（以下「都市計画マスタープラン」という。）として定めるものであり、市町村が主体的に、独自性を発揮して市民参加のもとに策定するものです。市民のまちづくりへの理解と参加を求めため、都市計画マスタープランでは、都市づくりの将来ビジョンをわかりやすく描き、その実現に向けた方法や施策を明らかにします。

2. 都市計画マスタープランの目的

都市計画マスタープランは、我孫子市基本構想に示された将来都市像『手賀沼のほとり 心輝くまち』～人・鳥・文化のハーモニー～の実現に向けて、地域のあるべき姿や都市づくりの課題をふまえ、これらに対応した都市整備の方針を定め、今後の都市づくりを総合的に進めていこうとするものです。

3. 都市計画マスタープランの目標年次

都市計画マスタープランは、長期的な都市づくりの基本方針を示すものであり、計画の開始年次を2002年（平成14年）度とし、おおむね20年後の2021年（平成33年）度を目標年次とします。

4. 地区別構想 「布佐地区」

将来像：緑があふれ、祭りに人が集う東の玄関口

布佐地区は、水運で栄えた歴史の中で、特有の文化を育ててきました。住まいの緑と自然の緑が調和したまちは今、市の東の玄関口として、隣接する町との交流が盛んです。

伝統的な祭りや新たな文化を通して、子どもから高齢者まで世代を超えた人と人との結びつきを深めるとともに、近隣市町の人たちとの交流を進めて、のどかな自然の中で、人々の心が豊かな、魅力あふれる町をめざします。

<人のつながりを深めるまちづくり>

- 市民活動や地域活動をとおした地域住民の交流促進

<地区の資源を生かし、にぎわいを生み出すまちづくり>

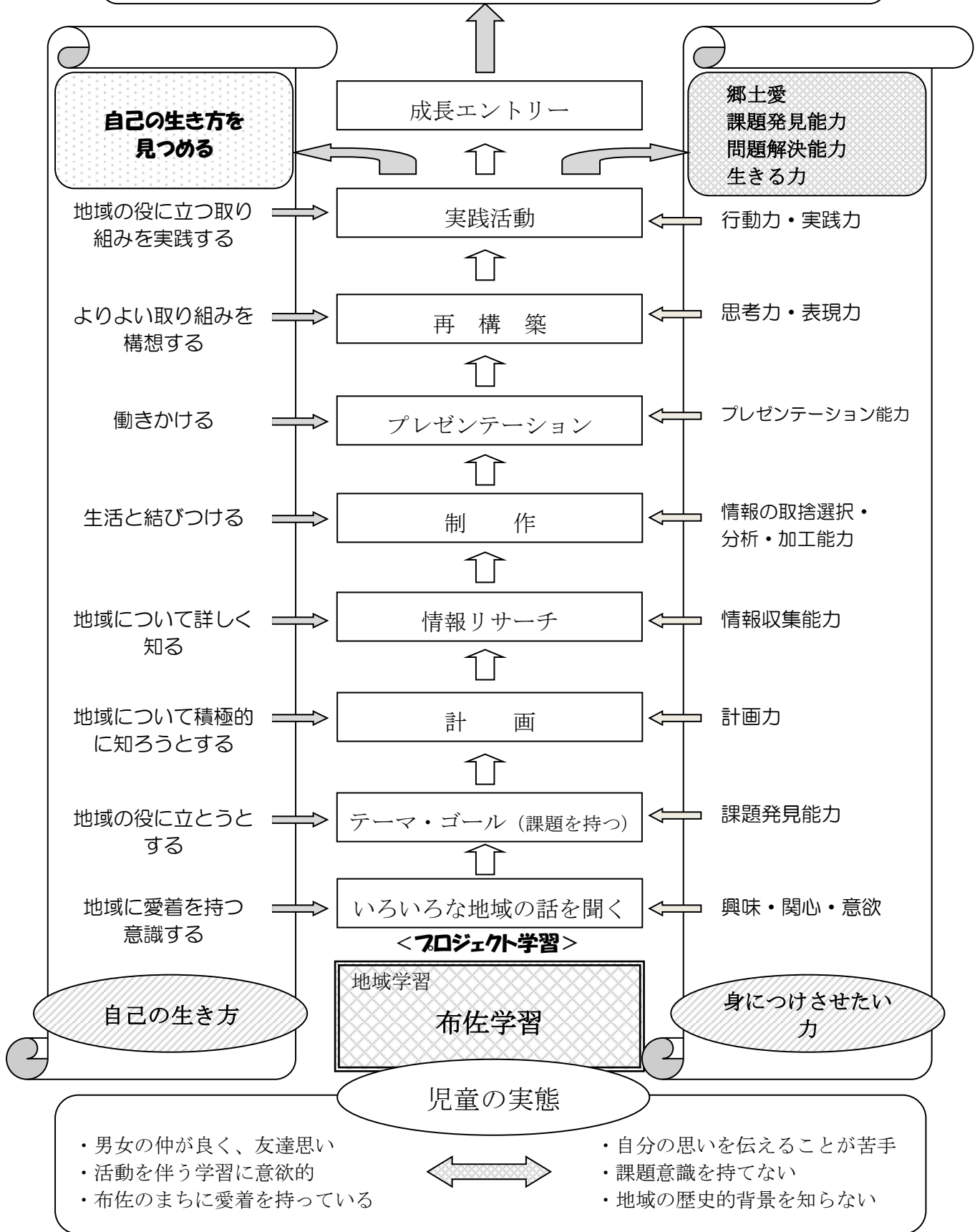
- 歴史的・文化的資源の活用によるにぎわいづくり
- 地区住民のくらしを支える買い物環境の充実

<安全で快適なくらしを支えるまちづくり>

- 公共交通の利便性向上と、誰もが快適に移動できる環境づくりの推進
- 市街地の都市基盤整備の推進

5. 研究構想図

目指す児童像：「心豊かにたくましく生きる児童」
 自ら学びたくましく生きようとする主体的かつ積極的な姿勢を身につけながら、相手の気持ちを思いやれる心の豊かな児童



☆プロジェクト学習への取り組み

プロジェクト学習とは・・・

子どもが意欲的に自分のテーマを持ち、問題を解決していきながらゴールへ向かう新しい学習。その最大の特徴は、「何のために何をやりとげたいのか」を子どもたち自身が自覚し、戦略的に目標達成していくプロセスとその全体を俯瞰できるポートフォリオの存在にある。ポートフォリオを活用したプロジェクト学習を行うことで、「意欲」「自信」「考える力」を確実に身につけることが期待できる。

プロジェクト学習はチームで行う

学年（学級）全体で一つのテーマに向かう。それを「プロジェクト全体のテーマ」として進める。そして、自分の考えを持った一人一人が集まってチームを組み、テーマを解決するための「ゴール」に向かう。ゴールは「夢」の実現であり、夢は一人ではかなえられない。チームワークでゴールに向かい、戦略を練り、目標を達成することで一人一人の個性が発揮され、課題解決力、イメージ力、自己評価力など21世紀を生きる力が身につく。

◎布佐小学校プロジェクト学習の題材：

「布佐学習」（郷土学習・まちづくり）

◎各学年のテーマとゴール：

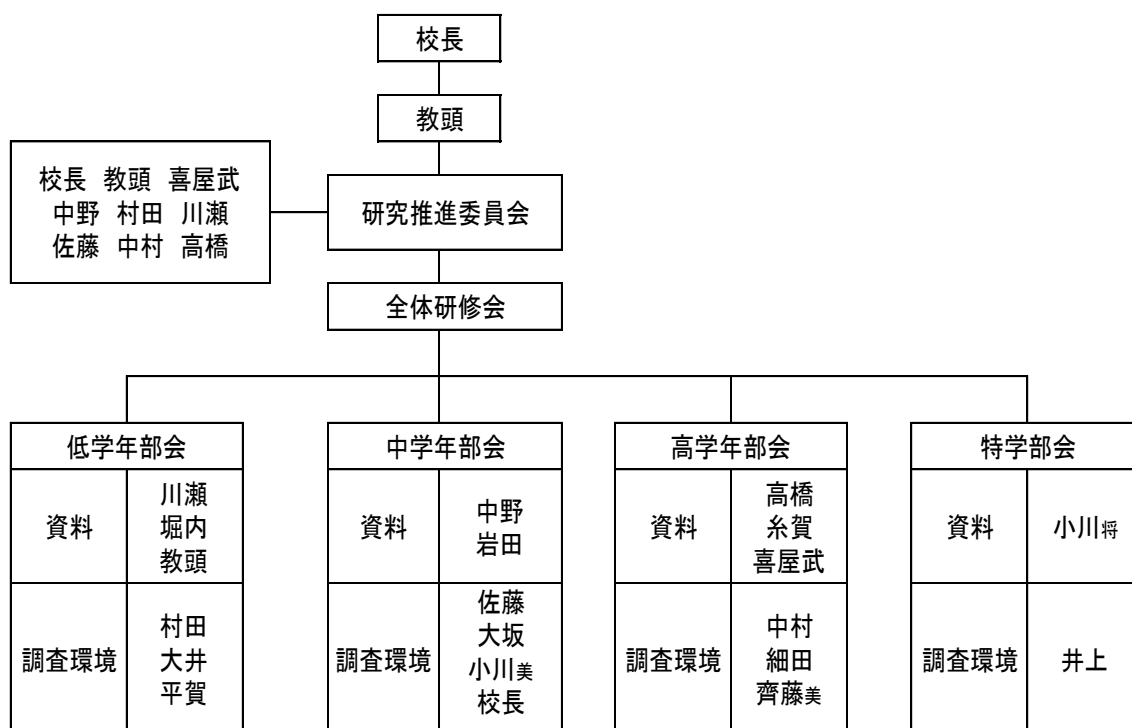
- 1年：テーマ「こうえんだいすき」
ゴール「みんなの願いを伝える立て看板を作る」
- 2年：テーマ「ふさの町のよいところをたくさんみつけよう」
ゴール「ふさのまちのじまんパンフレットを作る」
- 3年：テーマ「ふさの町を知り、ふさの町を大切にしよう」
ゴール「布佐のまちの良さを伝えるゲームを作る」
- 4年：テーマ「水とともに生きる布佐の町を知ろう」
ゴール「布佐の歴史と安全についてのパンフレットを作る」
- 5年：テーマ「知りたい知らせたい、ぼくたちの町、布佐」
ゴール「布佐のまちについて知らせる絵巻物・パワーポイント資料・スタンプなどを作る」
- 6年：テーマ「布佐を知り、未来の布佐を考えよう」
ゴール「布佐について伝えるパンフレットを作る」

わかたけ・たけのこ：

- テーマ「布佐の今と昔を知ろう」
- ゴール「布佐かるたを作ろう」

6. 研究組織と運営

(1) 組織



(2) 運営

○研修日は原則として木曜日とし、各学年及び学団を中心にして研修を進める。

○研究推進委員会

- ・校長、教頭、教務主任、研究主任、各学年代表1名をもって構成し全体的な視野を持って研究が進むように推進する。
- ・必要に応じて研究推進委員会を開き、研究計画の原案作成や検討を行う。
- ・学年及び学団の研究の推進、連絡、調整に努める。
- ・全体会の司会や記録を行う。

○各学年部会

- ・研究主題、仮説につながる具体的な指導方法を検討し、共通理解を図り、実践していく。

○全体会は、研修計画や内容の決定、確認など共同研修を深める場とする。

7. 研究の経過

月	主な内容	形態	助言者
4月	☆研究の概要についての確認 ☆研究の全体計画作り ☆23年度の研究の骨子について（研究推進委員会を開く）	・協議	・校内
5月	☆23年度の研究について（共通理解を図るための全体会） ☆学団研修 ☆環境・資料部会の計画作り	・協議 ・作業	・校内
6月	☆学団、学年研修 ☆全体研修会（講演：総合的な学習の時間のあり方について）	・協議	・校内 ・市教委 管理主事： 鴨下 隆先生
7月	☆3年生授業実践 ☆1学期の取り組みのまとめ	・協議	・校内
8月	☆教材研究 ☆校内研修 地域学習「布佐の歴史をめぐるエトセトラ」 英語指導 コンピューター研修「パワーポイント」	・講義・協議 ・講義・実技 ・実技	・校内 ・辻史郎氏 ・ブランデン先生 ・IT支援員
9月	☆2学期の研究計画確認 ☆指導案検討	・協議 ・協議	・校内 ・校内
10月	☆指導案検討 ☆事前研修 ☆第1回校内研究会	・協議 ・プレ授業 ・研究授業	・校内 ・指導主事 横山悦子先生 ・校内 ・指導課長 田中 先生
11月	☆指導案検討 ☆事前研修 ☆第2回校内研究会 ☆第3回校内研究会	・協議 ・プレ授業 ・研究授業	・校内 ・校内 ・横山悦子先生 ・横山悦子先生
12月	☆2学期の実践のまとめ	・協議	・校内
1月	☆1年間の研究のまとめ ☆次年度の研究構想 ☆研究紀要作り	・協議 ・作業	・校内
2月	☆1年間の研究のまとめ ☆次年度の研究構想 ☆研究紀要作り	・協議 ・作業	・校内
3月	☆1年間の研究のまとめ 各学年のプレゼンテーション ☆次年度の研究構想・立案・検討	・協議	・校内

8. 研究の成果と課題

今年度は、「布佐学習」を中心に「心情豊かな子どもの育成」を目指して、研修を進めてきた。自分たちの住むまちについて、意欲的に学習し、そこからよりよいまちづくりのために自分たちにできることを探し追求していく活動を通して、互いに思いやる子どもの育成を目指してきた。

また、学習形態として「プロジェクト学習」を取り入れることで、子どもたちの「意欲・自信・考える力・伝え合う力」の育成を目指してきた。

<成果>

○「布佐学習」への取り組みによる子どもたちの変化

- ・布佐学習を通して、地域の先生、おうちの方、他学年との交流の場が多く持たれ、様々な人たちの思いにふれることで、心情豊かな子どもたちに育ってきている。
- ・自分の地域に対する愛着は育ってきているように感じる。少しずつでも続けていくことで、地域を大切に思い、その地域に住む仲間、自分も大切にしていき、少しずつ心情豊かに育っていくものと思われる。
- ・何気なく住んでいる布佐のまちを見直すことで、布佐のまちをもっと好きになり、大切にしようという心は育ってきている。
- ・今まで、体験学習が少ないので、この学習は子どもたちにとっては大変興味深いものとなったので意欲についてはかなり成果は出たと思う。
- ・布佐の歴史にふれ、自分の住んでいる地域に城があった、偉人がいたことを知り、調べてみたいという意欲を持ったと思う。また、「なぜ?」「どうなっているんだろう?」と考えようとする力がついてきたと思う。

○プロジェクト学習への取り組み

- ・明確なゴールを目標に活動してきた結果、活動は意欲的であった。また、発表の機会を設けたことで、発表することに自信が持てた。
- ・ゴールを明確にしたことで、見通しを持って学習に取り組めた。
- ・「ゲーム作り」ということでゴールを明確にし、そのために必要な準備を子どもたちとともに考え、計画を立て、ふさっ子フェスタの発表もゲーム作りにつながるものとしたため、長期にわたって学習につながりを持たせることができた。楽しみながら計画・準備が進められ「考える力」も育ってきているものと思われる。
- ・プロジェクト学習を進める中では、個々の協力が無ければできないことが多いため、人と人との関わりの大切さはどの子にも育ってきているのではないかと。
- ・成果物の作成や、発表への取り組みにおける子どもたち同士の関わりの中で、のびた面がある。

<課題>

- ・授業時数の確保。
- ・課題を持たせるための時間の短縮。
- ・校外学習をする際の保護者の協力。
- ・水害の歴史は資料が難しかった。ゲストティーチャーを招いて話を聞き、学んだことを生かして、文や絵、図に残していくような学習にしたい。
- ・授業の中で、困り感を持った児童を具体的にどう支援していくか。
- ・グループの学び合いをさらに活性化させるために、どんな手立てをとるか。
- ・子どもたちに自信を持って発表させるためのステップの工夫。
- ・様々な体験が不足しているので、体験活動を多く入れることで意欲を持たせる。
- ・課題解決力（読む・聞く・考える・話す）の育成。
- ・相手を思いやる心・協調性・表現力の育成。
- ・学んだことを広げていく力、自分の興味のあるところを掘り下げていく力の育成。

平成23年度布佐学習

ご指導くださいました先生方

我孫子市教育委員会 指導課 課長 田中 聡先生
我孫子市教育委員会 指導課 指導主事 横山 悦子先生
我孫子市教育委員会 学校教育課 管理主事 鴨下 隆先生

布佐小 研究同人

校長	菅藤 行雄	教務主任	喜屋武 讓
教頭	海老原 政登		
1-1	堀内 智聡	1-2	村田 澄江○
2-1	大井 弘子	2-2	川瀬 美帆○
3-1	中野 直美◎	3-2	大坂 弦
4-1	岩田 義彦 清水 健	4-2	佐藤 照代○
5-1	中村 眞弓○	5-2	糸賀 貴之
6-1	細田 雄樹	6-2	高橋 宏樹○
たけのこ	井上 恵司	わかたけ	小川 将司
少人数指導	谷野 俊次	音楽専科	平賀 由季
	中谷 廣明	養護教諭	小川美知枝
スクールサポーター	齋藤 尚史	理数教育サポーター	斎藤 美絵

◎研究主任 ○推進委員